

高速鐵路が開通しました

香港日本人補習授業校教員 森山 正明

2018年9月23日、香港から中国大陸の主要都市（北京・上海・広州など44都市）へ高速鐵路（新幹線）で直接行くことができるようになりました。真新しい新駅舎。外装も内装も斬新なデザインです。そして内部空間は広々としていて、香港の陸路の玄関口として存在感があります。

私は運行開始初日に乗車。香港中国からのメディアのほか、日本のNHKや世界中のメディアの報道合戦となっていました。一番列車は完売で、その様子をメディアは競って取材していました。改札口を通過後、すぐに荷物検査と香港の出境手続き、そしてその後中国側の入境手続き、荷物検査と続きます。今回この新幹線の駅では「一地両検」といい、一つの場所で2つの検査が行えるような仕組みとなっています。

出入境が終わり、いよいよ新幹線の乗車へ。香港の新幹線プラットフォームは、なんと地下4階！そして中国の鉄道は、15分前にならないとゲートが開かない仕組み。地下3階の待合スペースで待ちます。アナウンス後、プラットフォームへ移動します。

今回乗車した車両は、香港MTRが発注した特別車両である動感號（Vibrant Express）。座席のクラスは、一等車と二等車があります。シートは若干硬い感じがしますが、快適で満足。車内Wi-Fiも完備、コンセントもあるため、

充電することも可能です。

新幹線は、定刻通り出発。走行中、ほとんど揺れもなく、日本の新幹線と変わらない乗り心地でした。ただ、香港内は、そのほとんどがトンネル区間となっているため、景色を楽しむことがまったくできないというのが残念。車内では、速度表示があり、深圳福田駅まで最高速度は197km。わずか14分で到着。中国内に入ると最高速度は300kmとなります。広州南駅までは48分で到着。香港にまた新しい歴史が刻まれました。

香港にいらしたときは、ぜひこの新幹線を試乗してください。



始発駅である西九龍駅の真新しい新駅舎

2019年1月発行（禁無断転載）

目次

高速鐵路が開通しました	1
香港貿易發展局主催「Think Global, Think Hong Kong」、過去最大の対日プロモーションを実施	2
連合会：「第19回香港フォーラム」＆「全国協会交流会」開催報告	4
香港フォーラム・サイドトリップ「港珠澳大橋」	5
香港のイスラム～ハラール食品市場	6
各協会便り	
東京：日本香港協会創立30周年に当たって「女性のための投資入門・香港活用術」開催	7
関西：中秋節パーティー2018 アジアフォーラム、一帯一路サミットに参加して、アジアの動向	8
中京：香港ビジネスセミナー ワールド・コラボ・フェスタ2018	9

九州：香港城市大学専上学院 福岡夏季研修プログラム	10
山形：香港Food Expo2018に参加して	11
北海道：道内企業交流会、香港について学ぶ 「元気で、北海道」アジアで北海道PR	12
宮城：青森県「ねぶたツアー」研修会を実施 秋の料理教室を開催 YOUYOUクラブ主催「芋煮会」を開催	13
沖縄：沖縄日本香港協会総会開催 香港貿易發展局大阪事務所長サミュエル氏昼食セミナー開催 沖縄料理教室 MUJIカフェ香港で開催	14
広島：今年度の取組～広島「食」を通じた交流促進に向けて～	15
新潟：香港フォーラムから中国経済の改革開放の街深圳へ	16
高知：平成最後の正月に想いを馳せる	17

香港貿易發展局主催「Think Global, Think Hong Kong」、過去最大の対日プロモーションを実施

香港貿易發展局東京事務所コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー 米岡 哲志

◆現職の香港行政長官が10年ぶりに来日、3,000名超が参加

香港貿易發展局は11月1日、過去最大の対日プロモーション事業「Think Global, Think Hong Kong (国際化へのパートナー：香港)」を開催しました。プログラムは、メインシンポジウム、テーマ別分科会、ビジネス商談・相談会、ミニ展示会、晩餐会と盛りだくさんで、延べ3,000名以上の皆さまにご参加いただきました。本事業は、香港特別行政区政府が10月29日から11月11日まで、林鄭月娥（キャリー・ラム）行政長官の初来日に合わせて開催した「香港ウィーク」の一環でもあります。現職の香港行政長官の日本への公式訪問は、2009年2月の曾蔭権（ドナルド・ツァン）氏以来およそ10年ぶり、香港と日本の友好関係のさらなる強化にとり、象徴的なイベントとなりました。

ホテルニューオータニ東京「鶴の間」で午前中に開催されたメインシンポジウムでは、冒頭あいさつで行政長官が登壇し、訪日期间中に香港が持つさまざまな魅力を紹介することに意欲を示しました。行政長官はまた、中国政府が推進する「一帯一路」構想において、香港が特に金融面で果たす役割を指摘した上で、広東省と香港、マカオの連携を深める「粤港澳大湾区（グレーターベイエリア）」構想がもたらすビジネスチャンスの重要性を強調しました。

メインシンポジウムではこの他、来賓として出席した

関芳弘経済産業副大臣が、貿易やビジネスの分野での日本と香港の協力について語り、香港証券取引所会長の史美倫（ローラ・チャー）氏、其士国際集団社外取締役の周維正（オスカー・チョウ）氏、第一東方投資集団会長兼最高経営責任者（CEO）の諸立力（ビクター・チュー）氏、華潤集団（チャイナ・リソーシズ・グループ）会長の傅育寧（フー・ユニン）氏らを含む香港のビジネスリーダーたちが、アジアの経済的な見通しなどについて講演を行いました。一方、日本からは、日清食品ホールディングス代表取締役社長の安藤宏基氏、日本電気執行役員副社長の熊谷昭彦氏、三菱UFJ銀行頭取の三毛兼承氏らが登壇し、香港を活用した海外ビジネス展開に関する知見などを共有しました。

◆香港ビジネスの最前線、7つのテーマ別分科会で一挙紹介

香港政府投資推進局（インベスト香港）を特別スポンサーに迎えて開催した「中国・アセアン市場とその攻略法」と題したテーマ別分科会には、同局局長のステイブ・フィリップス氏、トリドールホールディングス代表取締役社長の栗田貴也氏、GLM代表取締役の小間裕康氏、良品計画取締役兼執行役員の鈴木啓氏、トミー・リーデザインワークショップでクリエイティブ・ディレクターを務める李永銓（トミー・リー）氏、みずほ銀行常務執行役員の安原貴彦氏にご登壇いただきました。この他に、テクノロジー分野に関連した「快適な暮らしを



香港のプロモーションに意欲を示すキャリー・ラム行政長官



香港と日本の官界・財界代表者が一堂に集合



来場者で埋め尽くされたメインシンポジウム会場

彩る空間づくりとデザイン」「スマートファイナンスとスマートリビングでアジアの力を強化」「ヘルシーエイジング技術の最新動向」「スマートシティのABCD-人工知能/ブロックチェーン/クラウド/データ」や、ファイナンス関連の「中国が描く金融成長戦略とその展望」、リーガルサービス関連の「日本企業のための法的リスク管理」など、計7つのテーマ別分科会を開催。香港が近年特に力を入れるプロフェッショナルサービスを日本企業が活用する方法などについて、具体的にご紹介しました。

◆香港からの訪日ミッションが日本の企業・自治体と商談

今回のプロモーションにはまた、230名以上のメンバーで構成される香港からの訪日ミッションが参加しました。金融、クリエイティブ、テクノロジー、食品などの産業分野での日本企業や自治体との協力・協業などについて、ビジネス相談・商談会やミニ展示会を通じて可能性を探りました。日本から参加したある自治体関係者からは、「商談で知り合った香港バイヤーに農林水産物のアピールをさらに進めていきたい」との声も聞かれました。香港のスタートアップ企業約20社が参加した「イノベーションサロン」には、香港のサイバーポート、香港サイエンス・テクノロジーパーク、香港貿易発展局主催「スタートアップ・エクスプレス」などに関連した企業が出展。革新的なテクノロジーを採用した製品を、日本の来場者に向けてアピールしました。



イノベーションサロンに詰め掛けた来場者

なお、香港貿易発展局は同日、会場内におきまして、日本貿易振興機構（ジェトロ）との協力覚書（MOU）を更新した他、鳥取県との協力覚書（MOU）を締結しました。

◆チャイナドレス、料理、音楽に酔いしれる夜の宴

一連のプログラムのフィナーレを飾ったのが「香港ディナー」と名付けた晩餐会です。美しい日本庭園で知られる八芳園の宴会場には、香港の有力ファッションデザイナー10名によるコンテンポラリーなチャイナドレス作品が展示され、日本・香港双方の来場者の目を楽しませました。食事に先立ち日本政府を代表して登壇した吉川貴盛農林水産大臣は、農林水産省が2017年10月に香港貿易発展局との間で日本産農林水産・食品の香港への輸出促進に関する覚書に署名したことに触れ、今後のさらなる輸出拡大に期待を示しました。

宴には、2014年に中華料理店では世界最年少でグルメガイド「ミシュラン」の3つ星を獲得した欧国強（アルバート・アウ）シェフが、日本の食材を使って独自に考案した料理が供されました。また、香港を拠点に日本を含むアジア各国の若い音楽家で構成される「アジアユースオーケストラ」のメンバーによる演奏や、2017年に地元ラジオ局の「最も好きな女性歌手」に選ばれた方皓玟（シャーマイン・フォン）さんとアカペラグループSENZAとの合唱なども披露され、400名以上の来場者を楽しませました。



弦楽器の音色が華やかに響き渡る





日本香港協会全国連合会 事務局

「第19回香港フォーラム」 & 「全国協会交流会」開催報告

◆第19回香港フォーラムで日本香港協会が10年連続“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞！

去る12月4日・5日に、香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Association Worldwide／本部＝香港貿易発展局内）の世界大会「香港フォーラム」が、今年もまた香港コンベンション&エキシビジョン・センターで開催されました。19回目の開催となった本年は、全世界から約370名の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年のフォーラムも、日本全国の参加者が世界全体の総参加者数の3分の1近くを占める総勢107名を数え、国別での参加者数が世界一となり、10年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、高知日本香港協会会長森本麻紀氏が、年間の活動を通してもっとも自身の（あるいは企業の）ビジネスを展開させた会員・法人会員が表彰される「サクセス・ストーリー・アワード」を世界中の参加者の皆様の拍手の中受賞され、高知から香港へ進出された事業とその抱負を壇上で紹介されました。

2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、ワークショップ、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。1日目の講演会では、「テクノロジーの未来:香港のテクノロジーを見つめて」と題して、テクノロジーハブとしての香港の可能性と優位性について、若きリーダーパネリスト達が自らの経験を語りました。また「ピアニストの旅路」と題して、若きピアニスト Niu Niu 氏が昼食懇談会に出演し、ピアノ演奏と自らの音楽家としての展望、音楽と香港についてを熱く語りました。また、今年フェデレーション常任委員会選挙が行われ、2018年から2021年が任期の常任委員が選出され、会長には香港シンガポール・ビジネス・アソシエーション会長デニス・チュー氏が選ばれました。

2日目の昼食講演会では、香港特別行政区政府財務長

官ポール・チャン氏が登壇され、香港の財政についての現状や構想について語られました。2日目最終プログラムとなるオプション視察ツアーでは、旧中央警察署・中央裁判所・ビクトリア監獄等の古跡を現代アートのハブとして利用した「大館」、チー・リン・ナナリー（志蓮淨苑）とナン・リアン・ガーデン（南蓮園池）、「ゴンピン360」の3プログラムの中から、おのおの自由に選択した視察ツアーをガイド付きで楽しみました。

最終日のフェアウェル・ディナーでは世界中のメンバーが集う国際的な交流が見られ、メンバー一同楽しいひと時を過ごしました。

◆日本香港協会全国の11協会が香港に集合

香港フォーラムの前日、12月3日には、「ビクトリア・ハーバー・スプリーム」において第11回全国協会交流会が開催されました。また、交流会に先立ち日本香港協会全国連合会総会が開催され、第7回総会として今年一年の活動を振り返り、来年の新たな事業計画が討議されました。

全国交流会では本年度の幹事協会である北海道日本香港協会の進行のもと、事務局の高橋明史氏の司会により、全国連合会原田光夫会長の開会挨拶、在香港日本総領事館和田充広大使兼総領事の来賓挨拶、香港貿易発展局BRE部ダイレクター、アイリス・ウォン氏の乾杯の挨拶で幕を開けました。今年日本香港協会が最初に東京に協会が設立され30周年にあたり、香港貿易発展局マーガレット・フォン総裁からNPO法人日本香港協会（東京）へ感謝状が授与されました。

終始なごやかな雰囲気で行われた交流会は香港貿易発展局東京事務所長伊東正裕氏の翌日から開催される香港フォーラムについての説明で幕を閉じました。

全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今年も120名近くの方に参加頂き大盛況の会となりました。

是非来年も皆様にご出席いただき、メンバーとの交流、ネットワーキングを深めていただければと思います。



フェアウェル・ディナーにて10年連続でベスト・アテンダンス・アワードの表彰を受ける日本香港協会



日本香港協会全国の11協会メンバーがすべて香港に集まりました

香港フォーラム・サイドトリップ「港珠澳大橋」

日本香港協会 広報委員 ジャッキー鶴丸

去る2018年10月23日に開通式典が行われた「港珠澳大橋」は、中国広東省珠海市と香港ランタオ島、マカオ花地瑪堂区を結ぶ海上橋だ。全長約55キロと世界最長で、総工費は1,200億香港ドル（約1兆7,200万円）。既に港珠澳大橋の見学ツアーや、マカオと香港市街地をつなぐ大型バス運行など、あらたな観光ルートがスタートしている。2018年の香港フォーラムのサイドトリップでは、この港珠澳大橋を経由して、珠海市および中山市を訪問する。港珠澳大橋を渡るツアーと聞いて、当協会の副理事長、藤澤慶彦氏ほかとともに筆者も参加した。

このツアーには、香港貿易発展局BRE部ダイレクターアイリス・ウォン氏と環球香港商業協会代表デニス・チュー氏を団長として、アメリカ、イギリス、カナダ、ドイツ、ハンガリー、ノルウェー、スイス、インドネシア、日本、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドから総勢57名が参加。国際色豊かなツアー一行は、大型バス2台に別れ、ワンチャイのコンベンションセンターから出発した。

港珠澳大橋をめざして、バスは人工島に作られた香港側の起点「港珠澳大橋香港口岸」に到着。ここで出国の手続きを行う。ツアー一行はバスを降り、各自の荷物をもって、イミグレーションを通った。出口で再びバスに乗車、海岸線を走ると、いったんトンネルに入り、またすぐに地上へと出る。やがて右に大きくカーブしたところで、海底トンネルに入った。トンネルの左右は白い壁で真新しさを感じさせる。そして海底トンネルを抜け、いよいよメインブリッジに上がると、視界がいきなり開けた。まるで海の上を走るような感じさえある。晴れていけば、世界の絶景のひとつにも入れそうな景色だったはずだが、あいにくの曇天で灰色の海が果てしなく続く感じだった。地図では1本の線に描かれている港珠澳大橋だが、実際は右へ左へとゆるいカーブが繰り返す道路で、左手の反対車線を黄色いシャトルバスがすれ違う。この港珠澳大橋は中国と同じく右側通行なのだ。また橋は、登録車両のみ運行が許可されているため、渋滞もなく快適な走行だった。やがて、対岸の珠海市の高層ビルが見え始めた。バスの行く道路は埋め立てで作られた珠澳口岸人工島につながり、ここで珠海口岸とマカオ口岸に分岐される。我々は珠海口岸から入国し、「港珠澳大橋珠海



車窓から見た港珠澳大橋

公路口岸」と大きく書かれた出入境の建物前で記念撮影を行った。

この30分程度で香港と珠海・マカオを結ぶ橋ができたことによる観光促進や経済発展の期待は大きい。中国の広東省南部(珠海・深圳)はその経済発展がますます加速され、多くの外国企業の投資が促進される。新興である珠海は急速に拡大するあまり、新旧のバランスのとれた発展になるかどうかは現時点ではわからない、しかし観光面では橋の利便性は高いとの意見を聞いた。実際に、珠海にある水族館「珠海長隆海洋王国」は、5匹のジンベエザメが迫力満点に泳ぐので人気が高い。香港からの観光客も多いと聞いている。ただ、時間短縮で便利になったとはいえ、今はまだ特別行政区であるマカオと香港、珠海は入出境の手続きを必要とする。やがて、その垣根が少しずつ取り外されていき、広東・香港・マカオが一体化され、「粵港澳大湾区（グレートベイエリア）」が完成されていくのだろうと感じた。

□サイドトリップ行程

- | | | |
|-----|----|-------------------------------------|
| 第1日 | 午前 | 香港 - 港珠澳大橋經由珠海市へ
広東自由貿易ゾーン「横琴」訪問 |
| | 昼食 | 香港と現地企業とのネットワーキングランチ |
| | 午後 | 珠海グリーンエレクトリック社訪問
珠海政府表敬訪問 |
| | 夕食 | 珠海政府による歓迎夕食会 |
| 第2日 | 午前 | 珠海 - 中山市
孫中山故居記念館訪問
中山市政府表敬訪問 |
| | 昼食 | 中山市政府主催の歓迎昼食会 |
| | 午後 | 明陽智慧能源訪問
簡單一點科技有限公司訪問 |
| | 夕食 | カジュアルディナー |
| 第3日 | 午前 | 古鎮訪問 |
| | 昼食 | カジュアルランチ |
| | 午後 | 珠海 - 港珠澳大橋經由香港へ |



孫中山故居記念館見学。国際色豊かな一行

香港のイスラム～ハラール食品市場

日本香港協会 広報副委員長 本田 茂樹

2030年には人口が22億人に達すると言われているイスラム圏市場は、世界の20%の人口を占める未開拓の巨大なマーケットである。ハラール加工ハブ（食品、化粧品、医薬品）、金融サービス、保険、旅行、レストラン、更に港湾、物流、航空等のロジスティック等々までハラール産業規模は、約300兆円、そのうち食品は、約60兆円と言われている。アジアでは、マレーシア、ブルネイをはじめ、インドネシア、シンガポールの4か国でハラール認証の相互協定を結んでいるが、イスラム教学派の違い、社会習慣の違い等により異なる部分があり、アジアハラール委員会を組織し調整している。

それぞれの国の国家戦略にて、規格の厳しいハラール認証の世界標準を求めて熾烈な競争が行われているのがイスラム圏の実態である。特に食品では、その参入領域は、大学、空港、軍、国連、国際機関等々と多岐に亘っている。

マレーシアでは、世界標準化に向けてハラール食品規格(MS1500)を明文化しており、世界最大規模のハラール商品見本市「マレーシア国際ハラール見本市(MIHAS)」が毎年開催され、食品の他にもイスラム金融、ハラール食品向け機械や化粧品など徐々にブース数が広がっている。また、ブルネイでは、厳格なハラール実施国、アルコール販売の完全禁止国として、食、薬品、化粧品基準といった政府によるハラール基準の開発が行われ、国家のハラール認定ロゴによるブランディングの獲得をビジネス・モデルとしている。特に、各国のハラール食品認証は、その信頼性獲得の厳しさを求め、GHP(適正衛生基準)、GMP(適正製造基準)、HACCP(危害分析重点管理点作業管理)、GAP(適確な農業管理)等々を絡めて、国家発展のためのグローバル・ブランド戦略として、その販路をイスラム圏のみならず、非イスラム圏の母親、子供たちにも広げ、安心安全を提供できる高品質な商品価値創出を目指している。

ブルネイのこのハラール貿易をロジスティックの面で動かしているのは、香港にあるハラール認定を受けた物流会社である。食品、医薬品、化粧品、原材料、包装、保管、輸送、観光等々を対象に世界市場にブルネイのハラールブランドの貿易管理を行うために、物流全般のハラール認定を受けた香港企業がブルネイと商業契約を結び、そのハラール貿易を一手に動かしている。

香港の中心地尖沙咀駅近くには、大きなモスクがある。香港はその数27万人を超えるイスラム教徒が暮らしている、非イスラム圏では世界でも屈指のムスリム・フレンドリーな場所とも言われている。その大半はインドネシア人が占めているようだ。現在、香港では、ハラール認証を得たレストランも60か所以上あり、日本食への関心も昨今話題となっている。元々食料自給率が低く、食品産業があまり発達しなかったイスラム諸国市場では、日本のスポーツドリンク、栄養剤、乳酸飲料、菓子、いなり寿司、BBQソース、焼肉のタレ、わさび、

焼きおにぎり、サプリメント、健康食品、さらにジェネリック医薬品等々、数多くの商材が人気のようなのである。すでに「ハラール餃子」や「ハラール甘酒」なるものも開発されているようである。

香港Food Expoにおいても、毎年ハラールゾーンが設けられているが、2018年夏(8月16～20日)はインド、イラン、マレーシア、ベトナム等から10数社の出店があった。今回、一帯一路におけるハラール商機に関するフォーラムも開催されたが、商材としては未だナッツ類等が主流で、充実しているとは言えない状況にある。香港では、そのマーケットの大きさに比し、購入者層も未だ限定的であるようであり、27万人を擁する香港ハラール市場における日本食ハラール参入は依然未開拓の領域である。

ハラールは、宗教(宗教委員会による認証承認)と密接に絡んでいるためイスラム教の素養がないとまず理解できず、厳格なハラール認証を含め、特に食品に関するその対応は、物流も含めてハードルの高い市場参入障壁となっている。我が国では、観光庁が観光戦略実行推進タスクフォースにて、2020年の東京オリンピック開催を控え、「ムスリムおもてなしガイドブック」作成をはじめ、訪日ムスリム外国人旅行者受入環境整備地域を選定しインバウンドの取り組みをはじめており、今後香港を布石として日本食のハラール参入を活性化することが望まれる。香港イスラム市場への安心安全設計のムスリムフレンドリーな日本食参入にあたっては、今後香港Food Expo、国際見本市等を舞台に、その商材、工場、物流等のハラール認証対応を含め、ジェットロ、日本食レストラン海外普及推進機構(JRO)、食品産業センター、農林水産省輸出オリエンテーション、地方自治体主催の商談会、運送、物流会社等々の各関連機関との一層の連携に基づくグラウンドデザインが求められるものと思われる。



尖沙咀にある大きなモスク(写真:小溝文雄)



日本香港協会 理事長 原田 光夫

日本香港協会創立30周年に当たって

当会は1988年2月17日に香港駐在経験者とその家族が中心になって設立されました。最初は任意団体として「香港に対する理解を深め、日本香港間の経済的及び文化的交流を増進することを目的とする」(会則第1条)として発足しました。その後2002年に特定非営利活動法人(NPO)として東京都知事の認証を得ました。1989年以降関西・中京・九州・山形(一旦休会)・北海道・宮城・沖縄・広島・新潟と各地に協会が設立され、2016年には高知、2017年には山形日本香港協会が再建されました。

現在では関係各位のご努力により全国で約1,100人の会員を有しております。加えて2000年から毎年香港貿易発展局が主催する香港フォーラムには100人以上の会員が参加して、香港情勢・中国・アジアのビジネス戦略



▲：左から石田美・北洞吉雄両副会長
中央挨拶する岡田昇会長その右へ多田精宏・寺嶋成晃両監事

を学び、海外会員との友好的な交流を行っております。最近のトピックスとしては去る11月1日、香港貿易発展局がJETRO、経団連、中小機構、東京商工会議所等と共催で「think GLOBAL, think HONG KONG」の一大シンポジウムを開催し、香港特別行政区行政長官林鄭月娥(キャリア・ラム)氏も多くの経済人と共に初来日。ビジネス

パーソン中心に約3,000人が参加しました。今後の貿易発展や相互の友好促進に役立つ好影響が期待されます。

香港は1997年の中国返還後20年以上が経過しましたが、この間、2017年11月27日にASEANとの自由貿易・投資協定に調印しました。これにより中国のみならず東南アジア諸国との経済・貿易の中継地としての役割はますます重要になってきています。香港は今や日本を抜いて長寿ランキング1位にもなりました。日本の食品・農産物輸出先として最大のお客さまであると同時に、香港からの訪日客は年間223万人に上り、3.3人に1人が日本を訪れるほど親日的でもあります。今後とも更なる貿易と友好促進に邁進したいと思っていますので、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



現在TDC東京事務所長伊東正裕氏のご尊父

日本香港協会 広報委員 ジャッキー鶴丸

「女性のための投資入門・香港活用術」開催

当協会の女子プロジェクト「パウヒニア会」の第28弾イベントとして「女性のための投資入門・香港活用術」が開催されました。人生100歳時代の昨今、資産形成は重要なテーマです。始めに、ニッポンウェルス(香港)銀行取締役CIO長谷川建一氏より、「あなたの『備え』は大丈夫? 運気もアがる香港で、貴女も資産運用」を、続



有意義な講演と美味しい食事で大満足

いて、株式会社AGSコンサルティング/AGS税理士法人/AGS Consulting Global (HK) Co., Limited 国際事業部の室田貴之氏より、「知って置くと便利! 香港税務のイロハと日本の制度の“肝”」を講演いただきました。

投資のさまざまな方法や堅実な運用方法など投資の基礎知識や、香港と日本の税制の違いなど、分かりやすく教えていただきました。その後のディナータイムでも両氏に質問が飛び、参加者の関心の高さがうかがえました。

香港では、金融機関のロビーで為替、株価、ファンドの動きを注視している様子をよく見かけます。私たち日本人ももっと資産投資に関心をもってよいのではと感じさせるイベントでした。



講師の長谷川建一氏(写真右)と室田貴之氏(写真左)



関西日本香港協会 事務局

中秋節パーティー2018

関西日本香港協会では関西と香港の経済・文化交流を目的に毎年様々なイベントや行事を開催しております。中国・香港での国民的伝統行事「中秋節」への理解を深め、会員相互の交流と懇親を目的とした恒例の中秋節パーティーを去る9月27日に中国料理錦城閣で開催し、58名の参加者がパーティーを楽しみました。

中秋節は中国伝統の収穫祭です。古代中国の農耕の神として月を拜む習慣や、秋の収穫を月に感謝する秋分の祭りから発展したもので、「月が一番丸くて大きい」と讃えられる旧暦8月15日に移行したのは唐の時代といわれています。丸い月は豊作や家庭円満を象徴するめでたい形で、月餅の中に入っている塩漬けの卵黄は月を表しています。中国伝統の中秋節は香港でも旧正月と並び市民生活にしっかりと根付いています。ビクトリア公園ではランタン祭りが開催され、公園のあちこちで地べたにろうソクを月の形に丸く並べて月見の家族団欒をしている様子が見られ、各地の広場でドラゴンダンスが見られます。麦わらを巻いた龍の胴体に線香を突き刺して線香の煙を自分の体に浴びて健康を祈る庶民の習慣を見ることが出来ます。日本でも地方では、鋤とお酒を供えて中秋の名月を拜む習慣が残っている地方があるようです。

パーティーは戒田真幸会長の開会の挨拶で始まり、今年3月に6年間香港貿易発展局大阪事務局長を務められて東京事務所に栄転された伊東正裕氏の後任サミュエル・チェン氏が紹介され、チェン氏は一緒になって協会を盛り上げていきたいと挨拶されました。今年2月に副会長に就任された伊藤紀美子氏に乾杯の音頭をとっていただき、錦城閣の中秋節特別料理で会食を楽しみました。会食の間もテーブル間の交流が活発になされ、田島等事務局長兼文化部長司会で行ったラッキードローでは参加者を大幅に上回る71個の景品提供があり、キャセイ航空提供の特別賞「香港往復ペアチケット」が当たった(株)フォーチュン結城雅子社長は大喜びで大変盛り上がりしました。今年は初参加の方も多く大変盛り上がり楽しいパーティーとなり、最後に田中義次副会長の閉会の挨拶で閉会しました。



アジアフォーラム、一帯一路サミットに参加して、アジアの動向

講師：関西日本香港協会 理事 山本辰久氏

当協会では、活躍しておられる役員に講師をお願いして会員と役員との懇親目的の昼食セミナーを毎年開催しています。去る7月26日に超人気のレストラン“Lawry's the Prime Rib Osaka”で昼食セミナーを開催し、18名が参加して美味しいカリフォルニアワインとアメリカンローストビーフの食事をしながら懇談し、昼食の後山本理事に6月にマレーシアで開催されたアジアフォーラムと香港で開催された一帯一路サミットへの参加報告をしていただきました。

山本理事は、京都大学卒業後、横浜市都市計画局に入局のちボストン大学大学院に留学。(株)日本総合研究所勤務後に神戸大学大学院経営学研究科の助教授も経験しておられ、現在はボーダレス・プランニング(株)の代表取締役として、民間企業の経営計画立案、新規事業支援、海外進出支援、幹部社員育成、地方自治体の活性化プログラム支援などの分野で幅広く活躍しておられます。今回6月21日、22日にマレーシアで開催されたアジアフォーラムに協会を代表して参加してもらいました。開催国持ち回りで毎年開催されているアジアフォーラムに遠隔地の日本とオーストラリアから例年参加者がなく、日本との経済交流が緊密なアジアの香港協会と日本の交流の必要性を考慮して山本理事に参加してもらいました。今回のアジアフォーラムでの総会では、各国協会の活動報告がなされ、若手経営者向けプログラム、香港フォーラム参加促進策、2018年12月香港フォーラムで改選されるフェデレーション役員選挙のアジア地区立候補者などについて話し合わせ、懇親行事の会食などが行われたようです。山本理事は、担当企業のアジア進出新規事業支援活動で、アジア地域によく海外出張しておられることもあり、アジアフォーラム期間中、各国の代表と積極的に交流されました。またアジアフォーラム参加の後、6月28日に香港で開催された第2回一帯一路サミットにも参加され、豊富な写真をスクリーンに映して説明されたので、参加者も参加したような気分で講演を楽しみました。





中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

香港ビジネスセミナー

去る11月13日(火)に、名古屋商工会議所にて、秋季経済セミナーが開催された。当日は毎年午前中の行事として理事会を全員出席のもと、年内行事遂行報告が了承された後、香港貿易発展局サミュエル・チェン大阪事務所所長、リッキー・フォンマーケティングマネージャー両名にご出席を依頼。秋季経済セミナーテーマ「香港における再開発プロジェクトの可能性および日本のメディアで報道されない、最近の香港情報」として今回、リッキー・フォン氏を招聘し、自由貿易港、国際金融都市として発展を続ける香港について語っていただいた。

フォン氏は、現在の香港における3大プロジェクト「九龍西、九龍東、啓徳空港跡地再開発」について詳細な資料を基に解説。さらに「2018年内に開通予定の港珠澳大橋」などの開発を分かりやすく解説された。中小企業の参加者の多くがフォン氏と名刺交換を求める様子を見て「環境・快適な居住空間、日本の高度な技術・商材・サービス」などへの関心が如何にあるか、証明されたようでこのセミナーの意義を大いに感じた。



講演会場

ワールド・コラボ・フェスタ 2018

ワールド・コラボ・フェスタの開催も恒例となり、中京日本香港協会の出展も5回目となる。愛知県は、外国人住民数が全国2位で約24万人と総人口の3%を占め、このフェスタも愛知・三重・岐阜3県合同の「異業種文化の交流の場」として、外国人も来場。当協会としても香港、中国の方々との相互交流機会の中継地として参加している。今回は名古屋・栄オアシス21にて11月10日～11日と2日間に亘り出展企業、団体含め31社参加で開催された。

中京日本香港協会は物販出店の多い中、キャセイパシフィック航空の協賛もありパンフレット、ポスターを、また本部よりチラシ・小冊子を提供して頂き、主として香港、澳門PRとして来場者に配布した。国際交流協会報告では、前年72,000人の来場者に比し、今回は78,000人弱とのこと。



ワールド・コラボ・フェスタ

当協会ブース来場者からはテレビ、新聞等での中国と香港、中国と台湾といった話題、日本との関わり合いなど関心の深さを感じられた。さらに1点指摘したいのは年配層より若い世代が意外と香港旅行の経験がないとの返答が多く、課題と感じた。

日本香港協会全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517

〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜喜齋内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階
地域企業連合会 九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310

〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行ソリューション部内

宮城日本香港協会

電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com内

沖縄日本香港協会

電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会

電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会

電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階(愛宕商事株式会社内)

高知日本香港協会

電話 (088) 855-9570
〒780-0842 高知市追手筋2-6-9 大手門ビル3階西
株式会社オトル内

URL <http://www.jhks.gr.jp>



九州日本香港協会 事務局

香港城市大学専上学院 福岡夏季研修プログラム

九州日本香港協会では、毎年香港城市大学専上学院から来訪する学生に対し、夏季研修としてプログラムを組んでいる。このプログラムは、福岡県香港事務所からの相談を受けて九州日本香港協会が取り組んでいる事業で、企画立案から滞在先の確保まで幅広い事業内容になる。今年度は、2018年7月10日(月)から8月1日(月)の期間で、15名(男9・女6)の学生が参加した。大学で日本語コースを選択している学生たちで、学習歴は数か月から2年など日本語レベルは様々である。プログラムは、大きく「日本語研修」「企業訪問」「文化体験」「フィールドトリップ」「ホームステイ」の5つの構成になっており、土曜日、日曜日、祝日は休日としている。

7月10日の21時に福岡国際空港に学生達が到着し、滞在先の寮へ案内。11日は、学生の日本語レベルをチェックするためプレイズメントテストの実施を行った。日本語研修の講師は、外国人に日本語を教えている経験者で、今回は日常で使う日本語とビジネスで必要になる挨拶を軸に、福岡滞在中に訪問する企業の情報収集と質問ができるようになることを主な目的としている。12日の午後には、文化体験として浴衣の着付体験の実施、13日には博多名物のラーメンの工場見学と試食をするため、複合施設「一蘭の森」に出向いた。その日の夜は歓迎パーティを Pasta で有名なピエトロで開催。3日目になるとやっと落ち着いたようで、休日の過ごし方や香港の観光情報などスマホを使用しながら話していた。

18日は、学生からのリクエストが多かったコスプレについての講義を設けた。福岡で有名なコスプレショップのオーナー(自身もコスプレイヤー)にご講演いただき、学生も興奮していた様子。香港では日本のアニメがテレビ放映されており、インターネットで観覧する人も多く、香港の若者はアニメ好きが多いようだ。アニメ好きということもあり、20日の企業訪問では「サイバーコネクトツー」を訪問。この会社は、家庭用のゲームソフトの企画や開発を主に行っている。有名な作品は、「ナルトNARUTO」シリーズや「.hack(ドットハック)」シリーズとのこと。福岡は、ゲーム会社をはじめとするIT企業が多いことも特徴の一つである。

他の文化体験としてお茶(八女茶)と明太子工場の見学を行う。日本茶は香港でも有名ではあるが、八女茶は高級茶として取扱われているため親へのお土産として購入する学生もいた。明太子の工場はふくやのハクハクという工場で、学生達が一番興味を示していたのが、ゆるキャラのマスコットであった。「かぶり物」をしてマスコットと記念撮影をするなど文化の違いを楽しんでいた。

た。

26日は、丸一日を使って北九州市を訪問。小倉城や日本庭園の散策と学生達からのリクエストが多かった北九州市漫画ミュージアムを訪問。学生たちのマンガを読む姿は真剣で、マンガで日本語を勉強している様子が感じられた。

30日は、福岡市にご協力をいただき Fukuoka Growth Next を訪問。Fukuoka Growth Next は、グローバル創業都市として勢いづく福岡に、新たなスタートアップのプラットフォームとして誕生した官民共働型スタートアップ支援施設である。この施設は、閉校となった小学校をそのまま活かした施設で、現在100を超える企業が参画している。施設内の案内と、福岡市のスタートアップ状況、アニメゲーム企業の紹介などをご案内いただいた。香港の学生の一人は、将来福岡で起業すると意気込んでいた。日本で就職を考えている学生もおり、就職や企業状況を知らせることも重要であると感じる。

毎年行っているこのプログラムで一番の目玉になっているのが27日から29日にかけて行ったホームステイである。福岡市から電車で1時間程度の距離にある大刀洗町にお世話になっている。この大刀洗町とのお縁も福岡県香港事務所によるものである。15人の学生を8グループに分け、ホストファミリーの方に二泊三日お世話になるというもの。宿泊先も様々で、一番の人気はお寺である。お寺さんがホストファミリーとして受け入れてくださっている。大刀洗町は、枝豆が有名で「枝豆収穫祭」という行事を期間中に設けている。町民が役場前の広場に集まり、枝豆を食べながら交流を図るというものである。学生はお手伝いをするのだが、今年は台風の影響で1日しか実施できなかった。

最終日である31日は、研修報告会として一人一人日本語で思い出をプレゼンテーションし、最後に修了証書を渡し、研修プログラムの全工程が終了した。



浴衣の着付体験で訪れた福岡市博多の櫛田神社



株式会社米沢食肉公社 加工課補佐 小笠原 寿人



ジャパンパビリオンは、いつも大勢の来場者であふれかえる

香港Food Expo2018に参加して

平成30年8月15日から18日まで日本貿易振興機構主催の香港フード・エキスポに参加してきました。今回はジャパンパビリオンのニューチャレンジャー枠で出展させていただきました。

当社は山形県米沢市に所在を置き、置賜（おきたま）地方3市5町で育てられた「米沢牛」、「地元銘柄豚」を中心に生体搬入から屠畜、カット、加工まで同一敷地内で作業を行い販売している会社です。今回はやまがた食産業クラスター協議会よりお誘いを受け、初めての海外食品展示会を経験できました。初出展で多々不安な所もありましたが、会期2日目には大沼みずほ会長、中川勝米沢市長が応援に駆けつけてくださり、大変心強く感じました。

「米沢牛」は国際的に月齢の問題（食肉として市場に出す場合や輸出入の面で疫病対策などのため、国毎に月を単位にした牛の年齢による規制）があり、輸出する国が限られています。現在、「米沢牛」を香港に輸出する

事はできませんが、今回出品した「米沢牛入りサラミ」は来場者に大変好評をいただきました。是非取り扱いたいというお客様も多く、海外での需要・発展性を感じました。今後は輸出をする為に卸問屋を開拓し、自社商品の海外展開を図れる日も近いと思います。

今回の出展に関して、協力いただいた関係各位に、心から感謝するとともに、これを機会として海外に目を向けた事業展開を図れるよう鋭意努力してまいります。



会場の香港會議展覽中心



米沢牛のおいしさを香港からアジアへ



来場者に大好評だった「米沢牛入りサラミ」

HOKKAIDO

北海道日本香港協会



北海道日本香港協会 事務局

道内企業交流会、香港について学ぶ

札幌商工会議所の主催（後援：北海道日本香港協会）の「企業交流会」が、11月21日(水)ホテルモントレエーデルホフ札幌にて開催されました。インバウンドビジネスを進めている企業、香港での海外展開に関心のある企業を中心に約70名の方々が出席されました。

第一部のセミナーでは、香港貿易発展局の東京事務所長伊東正裕氏をお招きし、「香港の市場概況と広域経済圏構想」をテーマにご講演いただきました。北海道の食を通じて急増するインバウンドをどう取り込むかという課題と、最新の香港情勢を踏まえた海外展開についてお話いただきました。

伊東氏はまず香港の市場概況について解説され、中国が推進する現代版シルクロード経済圏構想「一带一路」、そして広東省珠江デルタ9都市と香港・マカオの一体化を推進する地域発展計画「大湾区」構想における香港の役割と戦略的重要性について話されました。

2つの構想において香港は、緩衝（政治的・文化的異質性の緩和・克服）や連結（中国と世界を結び付ける）、集約（事業と資金、国を跨ぐ企業をコーディネート）としての役割を期待されており、香港と中国本土との多面的な相互依存関係が一層強固となっていくと展望されました。

また、香港は中国本土へのゲートウェイとしての役割だけでなく、華僑・華人ネットワークのセンター機能として、東南アジアの華僑・華人社会へのビジネス参入機会を創造する場所としても重要だと話されました。「多くの香港人は、食や自然の豊かな北海道のことをよく知っており、大いに魅力を感じている。香港で毎年開催されるアジア最大級の国際食品見本市『香港フード・エキスポ』に、是非また北海道・札幌市が参加されることを期待している」と結ばれました。

第二部の交流会においては、終始なごやかな雰囲気の中、積極的に名刺交換・情報交換が行われ、参加者間で親交を深めました。



活発な企業間の意見交流が行われました



伊東事務所長と永島副会長

企業交流会後には、ご講演いただいた伊東東京事務所長、後藤マネージャーを囲んで、北海道日本香港協会との懇親会を行いました。香港へも輸出を行い、札幌唯一の酒造蔵元として札幌地酒ブランドを確立している日本清酒の「千歳鶴」と、北海道の新鮮で美味しい料理をいただきながら、北海道と香港の経済交流について熱く語り合い、有意義なひとときとなりました。

「元気です、北海道」アジアで北海道PR

日本貿易振興機構（ジェトロ）北海道は、胆振東部地震による風評被害などで訪日外国人客が減少していることへの対策として、道産食品と道内観光をPRする緊急プロモーションを始めると発表しました。マレーシア、ベトナム、香港、シンガポールのスーパーなどで、道産食品の販売や、道内観光を紹介するイベントを行います。各地で北海道ブランドを発信することで、観光客が減る冬場の道内に外国人を呼び込みたいとしています。

緊急プロモーションはイベントごとに参加企業を募り、2019年春まで継続します。ジェトロ北海道は「これまで広範囲で長期にわたる海外向けの北海道のプロモーションは初めて。外国人旅行者の減少に歯止めをかけ、増加させるため、北海道は安全だということを伝えたい」と話しています。香港では、同年1月から3月にかけて、百貨店やスーパーなどで北海道フェアを開催します。

元気です 北海道

WELCOME OENKI HOKKAIDO



Welcome!
HOKKAIDO,
Japan.



宮城日本香港協会 事務局

青森県「ねぶたツアー」研修会を実施

8月2日(木)～3日(金)と、「ねぶたツアー」を開催し、事務局も含め24名が参加しました。夏の夜空に願いを込め、今年は酷暑でしたが、涼しく歴史のある青森市のねぶたを見学しました。会員の親睦と、東北の風土・伝統文化、天空の恵みを堪能し、「ねぶた踊り」の特長について学びました。幸いにも棧敷席の最前列で見学でき、太鼓の鳴り響く音や鈴の音、そして踊り子と、躍動感溢れるお祭りに、初めて見学した人もいて、まさに感動の連続でした。次の日は酸ヶ湯温泉へ行き、温泉（混浴）へ入る人、近くを散策する人と2班に分かれました。混浴が気になり見学だけ行った人もいて、話題に花が咲きました。さらに奥入瀬溪谷の休み屋へ足を延ばし、十和田湖畔で深緑、青空を背景に全員で写真を撮りました。盛岡へ向かう車中では、シャンソンをアカペラで披露する人もいて、プロ級の唄に酔いしれる程でした。遅めのランチは、ぴょんぴょん舎の冷麺と焼肉、ビールがこれまた美味しく、更に盛岡駅前では「さんさ踊り」も見学できました。



ねぶた小屋の前でにこやかに

秋の料理教室を開催

10月23日(火)中国北京料理飛天に於いて、秋の料理教室を開催しました。講師は、今年創刊15周年を迎えた宮城・東北の上質な文化発信誌『Kappo 仙台闊歩』の編集長、梅津文代さんです。「秋に楽しみたい宮城のお酒とお料理」と題して、宮城の豊かな食文化にピッタ



おいしい料理をいただき、参加者も満足そうです

りなクラフトビールやワイン、そして宮城が誇る日本酒など多岐にわたるお話を伺いました。宮城の食卓を彩る料理やお酒の奥深さに、参加者も熱心に聞き入っていました。

続いての飛天の芳賀シェフによるレシピ・メニュー説明も、積極的な質問が飛び交うなど大変好評。美味しいお料理をいただきながら、宮城の食文化の奥深さに想いを馳せる、秋にぴったりのひと時となりました。

YOUYOUクラブ主催「芋煮会」を開催

11月3日(土)名取川沿いの茂庭荘で、午前11時から芋煮会を開催。38名の参加者が集まり、盛況のうちに終わることができました。小野寺会長の挨拶・大坪代表理事の乾杯で始まり、天気にも恵まれ気温も上昇。用意した生ビールが足りなくなりそうなので一人1杯に限定、後は缶ビールや焼酎に切り替えてほしいと幹事からお願いが出るほどでした。茂庭荘の温泉を楽しむ人もいて、帰りのバス時間15:00ぎりぎりまで和気あいあいと楽しむことができました。



家族連れで楽しいひととき



沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会 総会開催

平成30年度沖縄日本香港協会通常総会が11月8日(木)ロワジールホテル那覇北殿の間で開催されました。平成29年度事業報告および収支決算、平成30年度事業計画及び収支予算が承認されました。事業計画及び収支予算では、香港貿易発展局が主催する展示会等への参加の促進、香港フォーラム参加者の強化を目的として、香港フォーラムの登録料の事務局助成が本年度も承認されました。

香港貿易発展局大阪事務所長 サミュエル氏昼食セミナー開催

沖縄日本香港協会通常総会終了後、同ホテルにおいて、昼食セミナーが開催されました。講師には、香港貿易発展局（HKTDTC）大阪事務所長サミュエル・チェン氏をお招きし、「なぜ、今香港なのか」と題し講演を頂きました。

香港と日本の貿易関係は2017年実績で488億米ドルであり、そのうち日本からの輸入が324億米ドルと大幅な輸入超過で日本企業にとって香港は大きなマーケットです。また香港からの渡航者は2017年速報値で223万人を数え、前年度を21パーセントも増加しており、日本と緊密な関係にあります。香港で販路拡大の可能性があるのは、食品、泡盛・焼酎を含む日本酒類、伝統工芸品、文化・観光であり、その具体例を挙げました。日本酒類の輸出統計は、金額ベースで第4位。毎年増加していることや、日本の外食チェーンの進出も増加していることが報告されました。

香港のビジネス拠点としての魅力について「シンプルかつ低率の税制」「旺盛な企業家精神」「中国市場および国際ビジネスにおける豊富な経験」「多様かつ国際的な人材」の4つを挙げ、中国大陸市場やアジア市場でのゲートウェイとしての機能の重要性を強調されました。

会場からはアメリカと中国の貿易戦争の影響について質問があり、サミュエル・チェン氏は「アメリカも中国も大きなビジネス相手国であるため、その影響はある。



HKTDTC大阪事務所長サミュエル・チェン氏の講演

しかしながら香港は、拡大するアジアの国々とのビジネスも増加傾向にあり、香港の優位性は揺るぎないと考えられる」と答えられました。

最後に中国のことわざである「読万卷書、不如行万里路」を紹介し、「人間は本から得た知識だけではなく、実際に赴き自ら経験することが大事であるということわざです。是非、香港に来て頂き体験してみてください」と語り、香港での各種フェアやエキスポの参加を強調されました。



昼食セミナーの様子

沖縄料理教室 MUJIカフェ香港で開催

沖縄県香港事務所では、MUJIカフェ香港と共同で、カエプロジェクトの伊是名カエ先生を講師に、7月26日にMUJIカフェスタッフ向け研修会、7月28日には顧客向け料理教室を開催しました。

MUJIカフェは、昨年度、沖縄で研修を行い、沖縄のゴーヤーチャンプルーの作り方などを習い、写真を撮影し、それらを元に沖縄メニューを展開しています。沖縄の健康でローカルでナチュラルな感じが、MUJIカフェに認知されたのだと思っています。カフェスタッフ向け研修では、沖縄の環境と沖縄食材の関連性や、カフェで提供している沖縄メニューの意義を説明していただきました。香港は健康志向ではありますが、日本ほど栄養素には詳しくなく、ビタミンの種類やミネラルについてはほとんど理解されていません。極端な食事法を実践している人も多く、伊是名先生からのアドバイスに目から鱗の場面も多々ありました。

料理教室では、ゴーヤーチャンプルー、フータシヤー、ミスダル、もずくスープ、市販のガレットに紅芋ペーストを乗せたものをデモンストレーションし、うち2品は参加者にも作っていただきました。沖縄のゴーヤーは、沖縄で買うのに比べて香港では3倍以上の価格ですが、新鮮さや苦さと合わせて「とんがった形」が有名で、認知度は順調に高くなってきています。香港人は、ゴーヤーを肉と煮ることが多く、豆腐と炒める食べ方は初めて。沖縄ゴーヤーの浸透はもちろんのこと、ゴーヤーチャンプルーの食べ方が香港中に広がることを期待しています。



広島日本香港協会 事務局 玉垣 雅史

今年度の取組 ～広島の「食」を通じた交流促進に向けて～

本年度の広島日本香港協会の各種取組を進めるにあたり、8月28日に通常総会を実施しました。本年度総会は当初7月6日に開催を予定しておりましたが、天気予報で豪雨への備えが叫ばれる中、当日朝に急遽会の延期を決定しました。結果として「平成30年7月豪雨」と命名される未曾有の豪雨となり甚大な被害が発生する事態となってしまいました。多くの方が亡くなられ、家屋等への被害も広範囲に及び、また、鉄道や高速道路、主要幹線などのインフラの被災により、物流や通勤などの移動が制限されたことから、猛暑の中、社会生活へ大きな影響を与えることとなりました。年が変わった現在でも被害にあわれた皆様にはまだまだ長く続く復興の途上であり、ご苦勞の絶えない毎日を過ごしています。

総会の冒頭、広島日本香港協会深山英樹会長から、この度の災害によって亡くなられた方々へのお悔やみと、被災された方へのお見舞い、被災地の一刻も早い復旧への祈念が述べられました。また続いてゲストとしてご参加いただきました香港貿易發展局大阪事務所のサミュエル・チェン所長からも、被災された方々たちへの大変暖かいお見舞いのお言葉を頂戴しました。

総会の議事では、本年度の事業についてご審議いただきました。広島香港協会では、香港、広島の相互理解の促進はもとより、経済交流の活性化を図るため、経済関連事業についても積極的に実施しています。

本年度事業のうち経済関係の事業の一つの柱が食品の輸出促進です。香港は日本からの食品輸出額が1,877億円（2017年）と世界一の輸出先で、街中の小売店の食品売り場は近所のスーパーにでも来たような錯覚さえ覚えます。

広島からも多くの食品が輸出されていますが、代表選手としてはやはり牡蠣が挙げられます。広島の牡蠣は古くから米国等に輸出されており、1960年には「輸出向け生鮮冷凍かき処理業者登録条例」なども整備されています。香港には主力のむき身の冷凍品の他、殻付きの生食用そして中国料理には欠かせない乾燥牡蠣、さらには

オイスターソースなどの加工品も併せて輸出され、小売店で販売されたり、飲食店などで利用されたりしています。

牡蠣にもよく合いますが、広島の日本酒も多くの銘

柄が香港に輸出されています。ちなみに、広島は軟水が多く日本酒造りには向かない水といわれていましたが、1890年代に軟水醸造法の開発、日本初の動力式精米機の発明など、当時の非凡なイノベーター達の努力によって1900年のパリ万博で名誉大賞を受賞するまでになり、兵庫の「灘」と京都の「伏見」と並び広島の「西条」が日本三大銘醸地と呼ばれています。現在、広島県には約50の蔵があり、各地で特色のある日本酒が研を競っています。

その他広島名物のお好み焼きソースや牡蠣出汁入りの味噌といった調味料類、広島県が生産量日本一のレモンの生果やその加工品など、数多くの種類の食品が香港に輸出されています。また、食品の安全性への関心の高まりから、最近は鶏卵の輸出量が増えていますが生卵としても食べることでできる品質が求められ、毎月コンテナで輸送されています。

このような香港に向けた県産食品の輸出活性化の背景もあって、昨年度に引き続き、本年度も食品輸出事業を総会で承認いただき輸出促進商談会を実施することとなりました。

10月10日に香港マキシムサプライチェーンのケルビン・シャム氏を広島にお招きし、商談会を実施しました。当日は水産物、調味料、菓子等の予想を超える広島県企業12社が参加され、非常にタイトな商談スケジュールとなりましたが、参加全社と商談を実施することができました。香港のマキシム社は香港を中心に外食店舗を1,000店舗以上展開され、日本食の取り扱いも多いことから、業務用食材の提案を中心に参加企業は熱のこもった商談を繰り広げておられました。

また、ケルビン・シャム氏には商談会の前日には、県内食品加工メーカーへの訪問、商談会当日の夜には県内企業等28名との交流会に出席、翌日には早朝4時から広島市中央卸売市場のセリの視察や、西条に移動して酒蔵見学をしていただくなど、3日にわたり大変精力的に県内を巡回いただきました。

この商談会を機に、更に多くの広島県食品が輸出され、香港の方においしく食べていただけるように当協会としても商談後のフォローを進めているところです。おいしい広島の牡蠣やレモンなどの広島県産品を香港の方にもっと知っていただき、次は実際広島に来ていただいて、厳島神社やしまなみ海道の風景などを楽しみながら広島グルメをご堪能いただけたらと思います。広島の食をきっかけに交流が益々盛んになればと思っています。



深山会長の挨拶



商談の様子



新潟日本香港協会 事務局長 田中 湖雄

香港フォーラムから 中国経済の改革開放の街深圳へ

第19回香港フォーラムには今回は新潟日本香港協会から13名が参加しました。香港滞在中はフォーラムの他に各グループに分かれて視察や観光を行いました。そのうちの5名が9月23日に新しく開通した香港と広東省広州市を結ぶ高速鉄道を利用して深圳を視察しました。新しく開業した香港西九龍駅から深圳の福田駅まではわずか15分程度、その行程は全て地下路線で中国本土の方々のおしゃべりを耳にあっという間に深圳到着でした。

2018年は中国の改革開放から40年だそうです。私自身は20数年ぶりの深圳です。その頃も新興都市として発展していると感じましたが、今回の印象はその頃の数倍以上も都市が拡大していると思いました。現在は人口も1,200万人以上で東京並みの規模を誇っています。福田駅を出発した貸切りバスは深圳の中心部である深圳市民センター界隈を車窓から眺め、次に東門老街に向かい散策しました。東門老街は東京という渋谷のようなところで、ファッション店やファーストフード店、食堂などが軒を連ねています。

次に深圳の秋葉原といわれる華強北路商業区に向きました。商業区を貫くメインストリートは広くそして長く続き、いろんな場所に花々が植栽されていましたが、一歩ビルの中に入るやそこは昭和の秋葉原電気街そのものでした。ITや通信系のパーツ、それにドローンを取扱っているお店が目立ちました。

次に向かったのが中国で二番目に高いビルといわれる平安国際金融センターの541メートルの展望台ですがあいにくの曇り空で半ば雲の中、周囲がやっと見える程度でした。晴れた日には香港のビル群が見えるそうです。

そしてスケジュール上の最後の目的地、深圳イノベーションの中心地である深圳ソフトウェア産業基地と深圳

湾創業広場に向かいました。ここは深圳発展の頭脳とも思われるところで、中国全土から優秀な若者たちが集まって日々起業創業に向かって邁進しているそうです。驚くことに現地ガイド曰く、これらの若者たちはアイデアと情熱があれば場所と資金は行政が用意してくれるそうです。但しその結果は半年から1年程度で求められるらしく、このスピード感にも中国の発展を垣間見ることが出来ます。視察の後にこのエリアのカフェでコーヒープレイクをしましたが、そこに集う客層は若く東京のビジネス街のカフェをも凌ぐほど活気にあふれていました。

予定にはありませんでしたが、最後に蛇口港や香港側を見渡せる深圳湾公園を訪れました。ちょうどここは深圳湾公路大橋の深圳側にあたり、もともとは河口の湿地帯で野鳥の宝庫だったそうです。今でも多少の名残はありますが、おそらく想像がつかないくらい自然にあふれていた場所だと思います。

一つ驚いたのはこの公園の一角に電気自動車（EV）のタクシーの充電ステーションがありました。今深圳ではタクシーの約8割が電気自動車で、来年には全てのタクシーが電気自動車になるそうです。そういえば今年の香港フォーラムではアメリカのテスラの電気自動車が目立ちましたが、今年は中国EVの最大手の比亞迪（BYD）の車種が目立つようになりました。日本国内での電気自動車の普及の遅れが少し心配になりました。

今中国からは「一帯一路」が大きく注目を浴びていますが、これからは香港・広東の巨大経済圏グレーターベイエリア「粵港澳大湾区」構想からも目が離せません。2018年に香港から広州までをわずか48分で結ぶ高速鉄道が開通し、香港からマカオまで約30分になった全長55キロメートルの港珠澳大橋が開通しました。いずれベイエリア経済圏として東京やニューヨークを抜き、世界最大級となる粵港澳大湾区における香港の存在価値はますます大きなものになると確信しました。



華強北路商業区



EV充電ステーション



高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

平成最後の正月に想いを馳せる

平成最後の新年。皆さま明けましておめでとうございます。

昨年は高知日本香港協会の新体制のスタートでした。8月に本部で行われました事務局会では、私にとって初めての参加でしたが、本部の皆さま、また全国の事務局長、事務局の皆さまと親しく懇談させていただき、とても有意義な時間となりました。各地での取り組みや事業等、多くの情報、多くの学びをいただきました事、改めて感謝いたします。

新体制スタート後は、毎月定例理事会を開催し、10月11日には「東京も大阪もいい！でもアジアにはもっとチャンスがある！」と題し、講師に香港貿易発展局大阪事務所長サミュエル・チェン氏を招き、地元高知からは森本麻紀会長、松田高政副会長が講師を務め、参加者50名（定員50名）の来場者に、香港ビジネスを中心としたホットな情報をお届けしました。パネルディスカッションではたくさんの質問も飛び交い、香港への興味の高さを感じた次第です。またアンケート結果も好評で、入会者が増加しており、一定の成果を出せた事を事務局としても大変嬉しく思い

第1回 東京も大阪もいい！でもアジアにはもっとチャンスがある！

～海外ビジネスのプロフェッショナル講師～

スピーカー:

- サミュエル・チェン氏 (香港貿易発展局大阪事務所長)
- 松田高政氏 (高知日本香港協会副会長)
- 森本麻紀氏 (高知日本香港協会会長)
- 横山公大氏 (高知日本香港協会事務局長)

開催日: 10/11 (木曜日)

時間: 16:00～18:00

場所: 土佐郵便 790-0052 高知報基知中大川館1丁404号

TEL: 0881855-9570 FAX: 0881855-9571

ます。

セミナー最後のご挨拶では、地元県議会議員の久保博道様より、セミナー開催の意義、内容、また今後の可能性に言及いただき、今後行政とも深く関わっていただけるようにと、力強い言葉もいただきました。とはいえ、高知はまだまだアジアに対しての認識や情報が薄いと感じておりますので、今後、本部からの情報をしっかり届けていきます。

そして何よりも、12月に開催されました香港フォーラム2018において、森本麻紀高知協会会長がSuccess Story Awardを受賞するという快挙を達成し、高知の会員も大変喜んでおります。この受賞においては、会員はもとより、アジアビジネスに興味を持っている方達にも大きな影響がありますので、広く発信して参ります。

新体制発足から2年目を迎える今年は、より一層地元高知の皆さんに、香港の魅力や情報をお届けできるよう、精一杯努めて参ります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

◆宣伝のご案内

この場をお借りし、大変恐縮ではございますが、森本高知協会会長の香港2店舗目の出店をご案内いたします。

2017年4月香港島セントラルSOHOにおいて、待望の香港第1号店をOPENし、今も大変多くの皆様にご愛顧いただいております。そしてこの度、2018年9月香港そごう（コーズウェイベイ）において、1号店とは少し趣向を変えた2店舗目をOPEN致しました。テイクアウト専門店として、路面店とは違ったお店作り、メニュー作りに趣向を凝らしております。お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。オススメは、龍馬バーガーです。



 HONGKONG AIRLINES

日本7都市から香港へ

*東京、大阪、札幌、岡山、米子、鹿児島、沖縄

真心を込めたおもてなしでお迎えします

